

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	司法研究科
大項目	2 入学者選抜
中項目	
小項目	2.0.1 入学者選抜基準等の規定・公開
要素	適切な学生受入方針、選抜基準及び選抜手続が明確に規定され、適切に公開されていること。
小項目	2.0.2 入学者選抜の実施
要素	入学者選抜が、入学者選抜の基準及び手続に従って適切に実施されていること。
小項目	2.0.3 既修者選抜基準等の規定・公開
要素	適切な法学既修者の選抜基準・選抜手続及び既修単位の認定基準・認定手続が明確に規定され、適切に公開されていること。
小項目	2.0.4 既修者選抜の実施
要素	法学既修者の選抜及び既修単位の認定が、所定の選抜・認定の基準及び手続に従って適切に実施されていること。
小項目	2.0.5 入学者の多様性の確保
要素	入学者全体に対する「法学部以外の学部出身者」又は「実務等の経験のある者」の割合が3割以上であること、これに至らない場合は3割以上となることを目標として適切な努力をしていること。

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 面接試験の結果を重視するため、特別入試で総合点が優れていても不合格とする制度に改める。	→特別入試における面接点の最低基準の決定		C			
2. 既修者試験について、専門の各科目の合格最低点を決定する。	→科目別の合格最低点の決定。		B			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目2.0.1	2.0.1 入学者選抜基準等の規定・公開
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
小項目2.0.1	(公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input checked="" type="radio"/> 公表している <input type="radio"/> 公表していない
	(受け入れ方針)
	入試要項に学生受け入れ方針、選抜基準、選抜手続が明示され、今年度の改正については特に詳細に説明している。開学以来「人権感覚豊かな、かつ、現代社会の多様な法的ニーズに応える市民法曹として、法曹にふさわしい良き仕事を遂行できる人材養成」を目的としている。 (説明) 試験科目、選抜基準、選抜手続等について入試要項で公表している。
小項目2.0.2	2.0.2 入学者選抜の実施 (説明) 入試要項に掲げられた基準に従い入試が実行されている。
小項目2.0.3	2.0.3 既修者選抜基準等の規定・公開 (説明) 入試科目の明示、配点の明示等は行われている。
★ 小項目2.0.4	2.0.4 既修者選抜の実施 (説明) 既修者試験については、A日程入試、B日程入試、C日程入試とも試験科目、手続等が明示され、実施されている。ただ各科目ごとの最低点の設定、明示については、現在検討中である。 入学後の既習単位の認定についても適正に行っている。

小項目2.0.5	2.0.5 入学者の多様性の確保 (説明) 入学者の多様性の確保に関しては、未修者選抜や特別選抜において「法学部以外の学部出身者」および「実務等の経験のある者」を入学させるべき努力をしてきたため開学当初では目標である30%以上の入学を確保できていたが、ここ数年は司法試験合格率の低下、特に他学部出身者の合格率低下に伴い志願者が減少し、30%の目標には達していない。2011年度入試においては法学部以外の学部出身者の入学者の割合は27.8%にとどまっている。
その他	

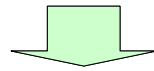
《評価指標データ》

★	
★	
★	

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	2011年度入試より入学者定員を法学未修者50名、既修者40名、特別入試10名と改正した。また、2012年度入試より、A日程入試、B日程入試、C日程入試の3期の入試を導入した。B日程入試の特別入試に加えて、A日程入試、C日程入試では面接試験を行うこととした。
★	小項目2.0.3
小項目2.0.4	
小項目2.0.5	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	2012年度A日程、C日程入試における面接試験については、「成績の極端に悪い科目がある者は不合格となる場合があります」と記述して、最低点の設定があることを前提とするものとなっている。しかし、具体的な明示がない。このため、これを明示することが検討課題である。
★	小項目2.0.3
小項目2.0.4	
小項目2.0.5	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目2.0.1		
小項目2.0.2		
小項目2.0.3		
★小項目2.0.4		
小項目2.0.5		
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目2.0.1		
小項目2.0.2		
★小項目2.0.3		
小項目2.0.4		
小項目2.0.5		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 入学者選抜に関してさまざまな改善が試みられ、入学者の質の確保と多様性の維持に努力している点は評価されます。さらなる努力を期待します。
- 司法研究科を取り巻く環境が年々厳しくなる中、適切な入学者選抜を実行しようとする姿勢は大いに評価できます。2012年度入試から導入された3期の入試により、志願者の増加はもちろん、多様性の確保にもつながることが期待されます。
- 学生受け入れ方針は、ホームページで説明されているアドミッションポリシーの中の「求める人物像」(ロースクールにおいて必要とされる論理的思考力、分析力および表現力を有する者。広い分野において顕著な活動を行った者や、専門的な能力、資格を有する者などで、将来法曹となった時にその特長を十分に活かし社会に寄与する活動が期待できる者。出身学部にかかわらず、ロースクールにおいて必要とされる法学の基本的な学識を有する者。)だと考えられます。小項目2.0.1.の(受け入れ方針)はこれをお書きください。そして、説明で理由などを記述されることが適切かと思えます。
- 小項目2.0.3及び2.0.4において、どこに明示しているのか説明を加えることが望ましいと考えます。
- これまでの入試の状況を再評価され、入学者定員、入試制度の改革を実施されました。成果が表れることを期待します。
- 昨年度の学内第三者評価のコメントにもありましたが、経年の志願者数、合格者数などについて説明を求めます。昨年度は追加記述で具体的な数字を示されました。この数字を本シートに貼り付けて自己点検・評価されることをお考えください。
- 「実務等の経験のある者」の割合についても昨年度、記述を求めました。志願者数、合格者数と同様にご対応ください。
- 各科目ごとの最低点の設定、明示については、改善すべき事項にも記述をお願いします。
- ロースクール受験生数の減少と質の低下は大きな問題です。この問題は本学だけの問題ではなく、国の動向についても目が離せません。ご努力に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--